

# 戦争法案 強行おかしい

# 怒る若者 大きになろうねり

関西では、SADL (サドル＝民主主義と生活を守る有志)とSEALDs KANSAI (シールズ関西＝自由と民主主義のための関西学生緊急行動)が共催したデモ(19日、大阪・御堂筋)に8200人が参加しました。それぞれが行う街頭宣伝にも主催者の予想を超える人が集うなど、若い世代の運動に大きなうねりが起きています。

憲法は独裁を認めはしない

「安倍首相、この国の憲法はあなたの独裁を認めはしない」。戦争法案が衆院特別委員会で行採決された15日、大阪・梅田に学生の怒りの声がかぎりました。

## 大阪・御堂筋デモに8200人



戦争法案の廃案を求めてデモ行進する若者たち＝19日、大阪市

シールズ関西が行った緊急の街頭宣伝。マイクをもった寺田ともかさん(21)＝関西学院大学4年＝の訴えが、23日まで

にフェイスブックで3・3万件シェア(転載)さ

私たちは「戦後」続ける

れるなど、反響を呼んでいます。

「70年間、日本が戦争せずにすんだのは、戦争の悲惨さを知るおとなが、たたかかってきてくれたからです。ここで終わらせるわけにはいきません。私たちは『戦後』を続けていくんです」

街直には強行に憤る2700人が詰めかけました。「とにかく怒りをぶつけたくて来た」という大津市の女子高校生(17)。

京都市にある学校からの帰りに足を延ばし、「説明不足を認めながら、強行するのはおかしい。こんな方法で決まった法案で戦争になってしまった

ら、耐えられない」と話しました。

19日のデモに参加した人たちは、「連休を挟めば空気が和らぐ」(13日、テレビ朝日)と報じられた政府与党の思惑通りにはさせないと口をそろえました。

両親を誘って参加した女子高校生(18)＝大津市＝は「憲法を無視した法案の強行採決は許せない。国民をばかにするな」と力を込めます。憲法を読んで感動し、法学部をめざしているという

若い世代が街頭で自分の意見を堂々と述べる姿が上の世代に活力をもたらしています。

18日の1万人集会・デモ(大阪市北区、扇町公園)に参加し、19日は浴道からデモ隊を応援した男性(67)＝東大阪市＝は「若い人が腹から声を出し、生き生きと歩いてるのがうれしい。連帯の気持ちを伝えたくて来た」と目を細めました。

サドルが12日に大阪・なんば高島屋前で行った街直に、5カ月の子を抱いて来た女性(31)は「こういう場は初めて。自分より若い世代が頑張っているのを見て申し訳なくなった。子どものためにも自分も声を上げていきたい」と語りました。

(笹川神由、前田美咲)